

マスカット

山田真砂年

クフ王のごと寝そべつてマスカット

重く分厚く厄日の雲の迅さかな

曼珠沙華あたりがらんと咲いてをり

小鳥来るカランところげ鉄パイプ

あんぱんを昼食にして萩芒

新涼や紙ヒコーキの飛びすぎて

麺少し茹ですぎ残暑の冷し中華

朝顔の萎れるころや飯を食ふ

残る蟬終末時計を鳴いてをる

鯊釣りの岸壁にちよと寝転がる

赤とんぼ群れて水平重ねをり

畦道の果ては鳥海山稲やんま来る

近道といふは斜めや秋薔薇

秋うらら鳥観る人と花見る人

ビル街に霧降りさうやミルクティー

松籟に耳を澄ませば秋渴き

螢草通用口に日の当たり

傘迷ふほどの雨かな虫の声

子供には子供の正義新松子

稲刈りの三連休の初日かな

パチパチと木の実を踏んで放電す

深閑と菌の生ふて昼日中

たわわなればまづは渋柿とぞ思ふ

古墳への径は急坂残る虫

後ろ手に古墳の山の秋歩く